

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	中島 隆善
論文担当者	主査 池田 正孝
	副査 廣田 誠一
	副査 八木 秀司
学位論文名	Impact of the aberrant right hepatic artery on local recurrence of pancreatic ductal adenocarcinoma after pancreaticoduodenectomy (右肝動脈走行異常が膵頭十二指腸切除後の膵癌局所再発に及ぼす影響)
論文審査の結果の要旨	
<p>膵癌に対する外科的切除は唯一の根治治療であるが、局所あるいは他臓器転移再発を来すことが多い。局所再発は切除断端のマージンと密接に関連し、癌の顕微鏡的遺残は術後の予後不良因子である。一方、分岐異常を伴った右肝動脈(an aberrant right hepatic artery ; 以下、the aberrant RHA と略記) はしばしば遭遇する動脈破格で、膵頭部癌に対する膵頭十二指腸切除術 (pancreaticoduodenectomy ; 以下、PD と略記) に際し、術前の the aberrant RHA の認識やそれと腫瘍との位置関係の把握は、血管損傷や虚血性合併症の回避のため術前評価から術中操作に至るまで極めて慎重な対策が必要とされる。The aberrant RHA について、血管合併切除の是非や意義についての報告はあるが、それが与える影響やリスクは十分には解明されておらず、特に術後の再発形態について検討された報告はない。申請者らは、膵管腺癌 (以下、PDAC と略記) に対する PD 手術切除症例を集積し the aberrant RHA が術後の再発形態や予後に及ぼす影響を検討した。術後初回再発を局所再発、遠隔再発、多発再発の 3 つに分類し、さらに局所再発を再発巣の局在により 2 つに分類した。また、the aberrant RHA を有する症例群において、the aberrant RHA をその根部 (分岐部) に着目して 4 つのタイプに分類し、the aberrant RHA の根部から腫瘍までの距離を測定した。結果、PDAC に対する PD において、the aberrant RHA の存在は術後に局所再発をきたすリスクを上昇させる可能性があること、the aberrant RHA の合併切除は、特に腫瘍が the aberrant RHA の根部に近接した症例において局所再発を減じうる可能性があることが示され、今後の PDAC に対する外科的治療戦略決定のうえでの重要な知見であり学位論文に値すると判断した。</p>	